

ドローン前提社会の実現に向けたモデル事業
実施報告書

ドローン活用人材の育成

学校法人 慶應義塾
慶應義塾大学SFC研究所

2020年2月作成

報告概要

- 1 会社概要、ドローン事業の紹介等
 - 2 提案の趣旨等
 - 3 実施内容
 - 4 事業の成果等
- ＜参考＞ 実施費用等

1 会社概要、ドローン事業の紹介等

慶應義塾大学SFC研究所



SFC研究所は、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科、総合政策学部、環境情報学部の附属研究所として1996年7月の発足以来、21世紀の先端的研究をリードしてきました。

諸科学協調の立場にたって国内外のさまざまな関連活動と双方向の連携をとりながら先端的研究をおこない、社会の発展に寄与することをその目的としています。

慶應義塾大学SFC研究所

ドローン社会共創コンソーシアム



慶應義塾大学ドローン社会共創コンソーシアム
私たちのミッション

- ドローン前提社会の実現に向け、マルチステークホルダーで「研究」「人材育成」「社会応用」を先導する
 - 研究
 - 技術：ドローン機体、ソフトウェア、航空機設計、ドローン応用技術 etc…
 - 制度：ドローン法制度・規制 etc…
 - 人材育成
 - 啓発：ドローンの普及に向けた施策、社会受容性 etc…
 - 専門職：オペレータ（パイロット）、メカニック、無人航空機管制、事故調査、安全性評価 etc…
 - 社会応用
 - 産業・ビジネス：スタートアップ支援、リスクテイク etc…
 - 社会課題：公共セクターへの応用、commonsとしてのドローン etc…

Copyright(c) 2018, KEIO University, Research Consortium for Co-creation of Drone Collaborative Society. All rights are reserved.

ドローン社会共創コンソーシアムは、ドローン前提社会の実現に向け「研究」「教育」「社会展開」の3つの領域を柱とした活動を展開しております。

2 提案の趣旨等

将来のドローン産業の担い手の育成を目的とし、慶應義塾大学が掲げた人材育成のテーマは以下の5点になる。

1. ドローンの操縦技能の習得、
2. 空の安全に関する知識、
3. ドローン×プログラミングから学ぶ未来社会、
4. ドローンを応用した実践、
5. 地域の担い手になる専門技能(農林水産業、撮影、点検、物資輸送)

対象：公教育の現場、公立の小学校・中学校・高校ならびに各種学校等

今回はテーマ3を重点テーマとし、課題解決型学習をベースとした、ドローンから未来を考える「みらい教育」を企画提案、実施した。

3 実施内容①

【日時】

2020年2月11日 9:00~12:00

【場所】

神奈川県立希望ヶ丘高等学校 体育館・教室

【実施者】

慶應義塾大学SFC研究所ドローン社会共創コンソーシアム
政策・メディア研究科 研究員 原田久美子
サポートスタッフとして、社会人メンター4名

【参加者】

希望ヶ丘高等学校生徒
18名（1年生、2年生のScuolaセミナー希望者）



3 実施内容②

ドローンを通して、未来の利活用を考えるワークショップを実施。

- 1コマ目；ドローンとは？ドローンのマニュアル操縦体験。
- 2コマ目；ドローンプログラミングで課題解決
- 3コマ目；未来を考える科学者会議。Grで発表形式までまとめる。

授業のゴール：短時間でPDCAを回し、課題解決方法を図る。

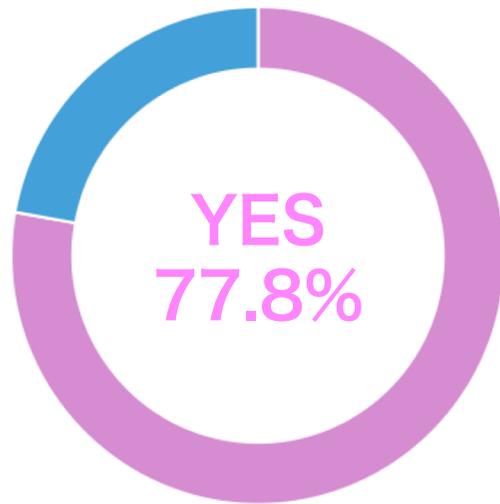
- ドローンに対して正しい知識を持ってもらう。
- プログラミング操縦を通して、実社会での活用方法を体験する。
- ドローンを通して、未来の活用方法を柔軟に考える。

みらい教育は、ドローンや未来という「答えがないもの」へアプローチすることで、自ら創造する学びへとつなげています。



4 事業の成果等

セミナー受講前後で、
ドローンに対するイメージが変わりましたか？



■変わった ■変わらない

セミナー受講後のアンケート結果より作成

＜主な感想・意見＞

- 技術の未来を議論したことで、より将来性に期待できるようになった。
- ドローンの操縦だけでなく、プログラミングでの飛行、そして未来のことを考える機会になった。
- 問題に対してみんなで意見を出し合う時間があったこと。普段の授業ではない活発さだったので新鮮でした。
- 人の生活を便利で快適なものにするものという考え方は変わらなかったが、細かい使い方や機能については思っていたよりたくさんあって驚いた。
- ドローンの使い道は、既に知っていた。イメージは変わらないが、実現はまずしないだろうと思っていたが、ルール等をしっかり決めていけば案外早めに実現しそうだと思った。

(総括)

18名の生徒全員がセミナーに対して満足だったとのコメント。

- 約80%の生徒がドローンに対しての認識が変わったとのこと。残りの20%の生徒は既に知っていたが、講座を通してプラスアルファの情報を得ることができたとの回答をいただいた。
- 操縦だけでなく、課題解決ワークショップがあったことで、生徒から新鮮だった、実現についてさらに考えたいと、前向きな意見が上がった。ドローン前提社会に向けての人材育成を、学校の授業に沿ったPBL学習の切り口から取り入れる一歩になったのではないかと。

<参考> 実施費用等

項目	内容	金額
タブレットレンタル費	プログラミング用 iPad mini 4台	12,560
謝礼	メンターへの謝礼	15,000
人件費	講師費用 1名x3h	20,000
交通費		1,260
計		48,820

※本事業における参考価格であり、内容、規模、期間等により金額は異なります。

(円)